



東証プライムって？

◆再編市場の最上位区分

Q－ニュースで「東証プライム」という言葉を聞きました。新たな市場ができるのでしょうか？

A－プライムは東京証券取引所の再編で誕生する新しい区分の一つです。現在は「1部」「2部」と新興企業向けの「ジャスダック」「マザーズ」の4区分ですが、4月4日からは「プライム」「スタンダード」「グロース」の3区分に変わります。このうち、プライムは上場基準が厳しい最上位です。これまで1部上場は「一流企業の証し」でしたが、今春からはプライム上場に置き換わることになりそうです。

東証の市場再編と県内企業の選択			
4月4日以降	主な上場維持基準	企業名	
プライム	株主	800人以上	北陸電気工事、三協立山、川田テクノロジーズ、中越パルプ工業、日本カーバイド工業、不二越、コーセル、北陸電気工業、ほくほくFG、トナミHD、北陸電力、日医工、ダイト、アルビス、大建工業、富山第一銀行、CKサンエツ、三光合成、ゴールドウイン、TIS
	流通株式時価総額	100億円以上	
	売買代金(1日平均)	2000万円以上	
	流通株式比率	35%以上	
スタンダード	株主	400人以上	富山銀行、黒谷、朝日印刷、日本抵抗器製作所、伏木海陸運送、大和、田中精密工業、エヌアイシ・オートテック、タカギセイコー、シキノハイテック、アイドマMC
	流通株式時価総額	10億円以上	
	流通株式比率	25%以上	
グロース	株主	150人以上	なし
	流通株式時価総額	5億円以上	

Q－なぜ市場区分を変えるの？

A－日本の最上位市場としては、東証1部の質が低下していることが理由の一つと言われます。再編で、プライム上場にこれまでよりも厳しい基準を設け、国内外の多くの投資家から支持を得られるようにすることを目指しています。

Q－上場企業にとっては、どんな影響があるの。

A－株式市場で売り買いされる「流通株式」を増やそうとする動きが上場企業の間で活発化しそうです。なぜなら、プライム上場維持基準の一つである流通株式の時価総額は「100億円以上」と、東証1部の「5億円以上」から大幅に引き上げられます。流通株式比率も従来の5%以上から、35%以上へ厳格化されます。このため関係のある企業同士が互いに株式を保有する「持ち合い」の解消や、経営者の持ち株売却などが進み、流通株式数を積極的に増やす動きが進むと考えられます。このほかにもいくつかの基準の見直しがあり、企業の行動に変化をもたらすことでしょう。

Q－県内の企業は市場再編でどうなるのかな。

A－県内の上場企業31社のうち20社がプライム市場に移行します。プライム市場には海外の投資家も対象とするグローバル企業が多く、国内や地域に重点に置く県内企業の中にはスタンダード市場を積極的に選ぶ動きも見られました。

Q－いずれにしても、上場企業の株を持っていない人には関係なさそうだね。

A－そんなことはありませんよ。株式の時価総額が小さい上場企業の経営者は、上場維持の要件を満たすため企業価値を高める努力に一層注力することになります。私たちの生活に役立つ商品やサービスが生まれ、経済が活性化されることが期待できそうですね。

(北陸経済研究所の辻野秀信が解説しました。)